伊勢物語　WA7-27　00-053
国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-054
国立国会図書館

又女ゑしし

行水にかすりくかことふきはらきん
いもにあひとはけつる

ゆくかはかくよりもはかなよハ
おもはぬ人をおもふなわけり

ゆくおとこ

行水と道ならひとちはたふと 左三首寄

いつ出もまてとふとさきまつらん

いほ出まてふこと城きくしも 雑

あたくへ人ゑゑ所しけはおとこ女のし

乃ひありきしに敷こしなはあし

伊勢物語　WA7-27　00-056
国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-057
国立国会図書館

わが袖ハくちぬ乃いかわにあらねども
くるまは霞の（霞ハ草にかくや）やとわなわけわ
（霞ハ草にかくや 霞ハ草の座にハあらむと）
まりしおとこ人しまぬもの おもひけわ
（まぬ）
はれなき人のもとに所
忘わひぬあまれ（我ハ）るもにやとはてふ
我から身をもくるしきなり那
男（好女の心ゆきて）こゝ所はきていふこれこそなるおとこふ
うをかしいふ所にいふつくわてをわけり
うこれ也なわふ里に所宮（交通）にしつりこと（子細）も

なき女ともれぬなりなわけ神ハ田からん
とてこの男のなる後見ていみし乃寸きも（葉草の歌ニ居ソカそ おもときぬ）
のし志王はやとてあはまわていわきけ所
はこ乃男（葉）にけておくにかく神ハけれハ女
なれはまはわあれいく世の座とあれ
はしけん人乃をとはれも勢ぬ
（あしもかし）
也いひてこれ宮にしあはまはきぬてあり
ハ神ハおとこ（葉草）
せくしおひてあまる流雨の（まそかれ）ハ
（れしさこ）

兼盛

ふりにもおもひ乃寸たくなわけわ

とくしな世いてしかわけ敷この女にもほ

ひろけんといひけれ

うちもひておちほほ詠ふときかまをハ

わ連もたつらふゆりましもれ城

せるしおとこ京をいつゝ思ひけ世ねんし

山所はまむとおもひいりて

はしわひぬいまをかありと山さとに

男をかくはんきやともとめて也

かくて抱いてくやしくて志にいりにわけ

そおもてにわけるを志ていきいてく

わうんに露うをくなる阿まの乃河

となんいひていきいてにわけ敷

昔おとこあわ雪かわ雪はかんいうのしく

心もまめならさわれ家おとの伊人とう志

ほめ所おもえんといふ人につきて人家

くはへいまけわこのおとこ宇佐濃はかひ

にそ以紀にる所あるくるの
官人儀めまてな世あ海ときて女なる
にかりけとらせよさらせハの海しとい
ひ人道ハかりけとわていしこわに歌
小さう歌なわにるまらはなをとわて
古今オ三 後人ちれば
漢書 魚芳七大之虚格 後々伝尼袖
を月まつ花たちはなのかぬかけそ
世ましろひとろ袖濃ううにる
世いひに歌所そなひいそあ海ふなわ
て山所いわてうあわ世歌

伊勢物語　WA7-27　00-061　国立国会図書館

も勢そゐる所をなといふ面もをぬと伊人
そ後ハこほ前に所めもみえ所もいた
まれといふ
業平 こ所やこれ我ふ所ふこ城のかきほ
とし月ふきとまさわのほなよ
せいひてあぬこきてとらせけきと寸てく
ふけりにわいつちいぬらんとも志らに
起りし世ん好答はに新女いそ心なさけおらむ
業男りおひえてしらなと思へ此いひ

いそむたよわもふさりまことならぬ愛
かなわをれ子三人をよひてかゝわ事わ
ぬこわのこハふさけなくいらへてやこぬ
さふらふなわ此子なきう紀伊にとこう
いそこんとあハけるりこれ女きん しき
いせよしこと人ハいやなされ志しいうて
この左五中将にあり勢てしらふと思ふ
心ありかわしあわきにる所いきあひ
てこちにそむ業平まれくちをとわてかうから

なんおもふといひ[illegible]ハあまたゝゆて
おて孫ゝりさそのち男みえさわ[illegible]ハ
女おとこ乃いふにいさてかいまゝ[illegible]を
おとこほ乃ゝ有り見て
老女とうこ
もとと[illegible]に一とせさしぬつくもゝん
[illegible]
[illegible]
とていてたつけ志きを見て世りしかゝら
まら有りかゝりていふにさてうちふせり
おとこかの女乃せしやうり志乃ひて

さて里てみまハ女ゝけおてぬるとて
せんきむ
さむしろまゝかさしきこよひもや
[illegible]
[illegible]
[illegible]
とよみ人ゝ[illegible]
秋そ孫有り[illegible]中乃[illegible]
をハおもひおもり[illegible]
乃人ハおもゝ[illegible]
せぬんなんあり[illegible]

伊勢物語　WA7-27　00-064
国立国会図書館

むかしとて以来もかわれる所以(漢字ニ書ニ)とこなわれる
殿上ありさふらひ人所あわりしなわれる
葉 おとこの御こいせわり来われる所をこの女
あひ志わたわれ物男女(ソナイヤウだ乃矣)たゆ所さまふわ
れれる女乃あ所所ありきそむかひをわれ
まへ女以とかこれなわ男(ミろともふ)ほ詠ひなれ
かくふせ愛といひ人所ハ
思ふまへ志のあることうなけにある
葉 あふすしかんそさもあらハあまと

といひてほうしにおわたまへ所ハまい
のこ乃みさう志まる人儀乃るをも志らて
所あわゐ人まへこれ女おもひもひて里へ
ゆくさまはなりのうきこゝろおもひて
以前かすひ人所そこれ人きてわ薄ひけ
里つとめてとのもほうそのこ所ふくほれ
とわておくあけいまて乃あ里ぬかく
かこはすしほこ所にこもいい
ほうまあわぬへ人所ハほゐすしほ詠ひぬ

伊勢物語 WA7-27 00-065
国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-066　国立国会図書館

こ乃兄のとハこのほかこちよくおもし
海してかとけの清なを清んりいまそ清
こ恵そいそこうとくてやゝ殆ふをきて
女ハ俾こうなよりわかゝ家きゑふ清かう
まつて寸くせ清こなくかあしきことこ
の業ととりほたは殆てとてなりなき
りるかゝ家かとにみかときこしめしつけて
こ漢男をはなりしつゝりしてしまハ
この女乃いそこの言ひ所女をはまかてさ

伊勢物語 WA7-27 00-067
国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-068
国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-069　国立国会図書館

昔おとこ、あはれ、うれしかりけること、いまのくにゝ
(鷲ヶ)
ふりのはかひにいさ、ほる所、かのいせ
(深草の后之実の母ハ名虎ヶ女静子と云)
深草宮なれば、日とのおやつまの乃つかひ
よわいこれ(葉)人よく以て、ものとといひやもり
ほしハおやの事なれば、いせ孫人
(せきんやこしんよせる)
こゝ、ありいたりけるもあしたまへりに
いてしたてゝやりゆふさわハうへわ、はこ
(近は)
うこまこ(末の后)をせはわかくてねんこ、ゝ以て
(とうり)
はきふわと日(めの辰)といふ歌おとこ、ほそゝあ

伊勢物語 WA7-27 00-071
国立国会図書館

みつきの
かわらけなるぬ
くひしさふ
まれてうつ
せんのよりかめるうり

いんといふ女もたたあいしとも思へ雖ひ
さまざまひとめしけれ雖ハえあたはひ
さまとする人なれハと我くも所とさひ女
（君達狩使をはとむるを云）
乃祢やもちかくあり人雖ハ女人我しけ
めてね目とつりあり（子人是より世ノ三文之二）おとこ乃もとに
（一所を見つかまつりて家の一刻之下のこけも世の三刻之）
きこゆ思わ男たたまう是さわれ雖ハ年の
かこを見いしてふせるり身の形ほ
ろなほふちけさ見あらは我さ見によてく
人さて里男いかしう雖しくてかのぬ流所

有しのそいりてまひとほらわかりしこけ
まそあ流に流こ所なりこともかこ雖ハぬふ
かへりまれわおとこいとかなしくてね寸
なりまゆわ流とめていふかしけまとかり
人をやるへ来りしあらねハいとんもと
所にてまちを是ハあけたなれて志りし
あり有し女のもとよりことにて
君所こし来是やなきれんおもなし寸
ゆゑか宇流にかまてりまめてう

古今十三に書
所なりなりけ
人のよめるとか

伊勢物語 WA7-27 00-072
国立国会図書館

おもこ以と伊さうなきてよめ流
かきくら可心乃やこ有しまとひ小れ
古今ニハこよひ
お人とを
こよひとて
よろしさと云
愛う流こと人こよひさ光ら
ぬよりそやりてかわ可いて思野よ何わ
けとんハ何の座にあきこ
うらにてこよひたふ人しけぬ
ていとゝあハんと思ふよくに乃ゑん
伊勢島
いけり
きれ宮乃ゑんかけふ軌ゑり流けかひ何里
ぬきて秋日とよさけ乃見しに稀ハも
ゑり
いりなひこともえきてあけそれも流國

面まちなんぬほはハおとこも人志まれ
ちの源をなりせとえあハれ秋やうく
あれな事とれるかと有し女かこよわ
川たまさう流きゐさ可うゑ我ゑまて
いうしゑわとわてみまハ
かち人のわる神とぬまぬえ
にふるさゝ
ぬかおてれ恵ハあしうれ何ゑ流きゐさう
有しつ井未流れ見しそこゝれ
恵をうお流く

まるこあふさしこの於せまへらしを舞
とてあくまへにハ里乃くるへらしを有り
筆者のひん
なり神宮を水流(信和)に於ける時文徳天皇の御
女と於たかのみこ乃伊もうと

伊勢物語　WA7-27　00-074
国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-075
国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-076　-A
国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-076　-B　国立国会図書館

世にし男女を伴ふうらみて
岩藤ふみ見りさまに山づりあらはしとも
あるぬは相思くこひわたる海の邦
あしたといひ夕ゆふ物ハ女
おほよとの演におふてふみるからに
うらみそふだぬかる程もねやも
此いひてまさてつれふまりしきハ
袖ぬまそのまのしわれたつ海乃

葉

こゝろをあふまてやまむとやけるなかはしきとも
女
岩まよりおふるみ嶋めし清道なくハ
志ほひしほみちかひもなかりなせしと
又おふと
なみたよそぬ袖つゝ志かな海道の人儀
ほうきぬハそのしたくか
世にあふすかるき女にしなれ
あしに葉のきさはしはしき春宮落みやを

伊勢物語　WA7-27　00-079　国立国会図書館

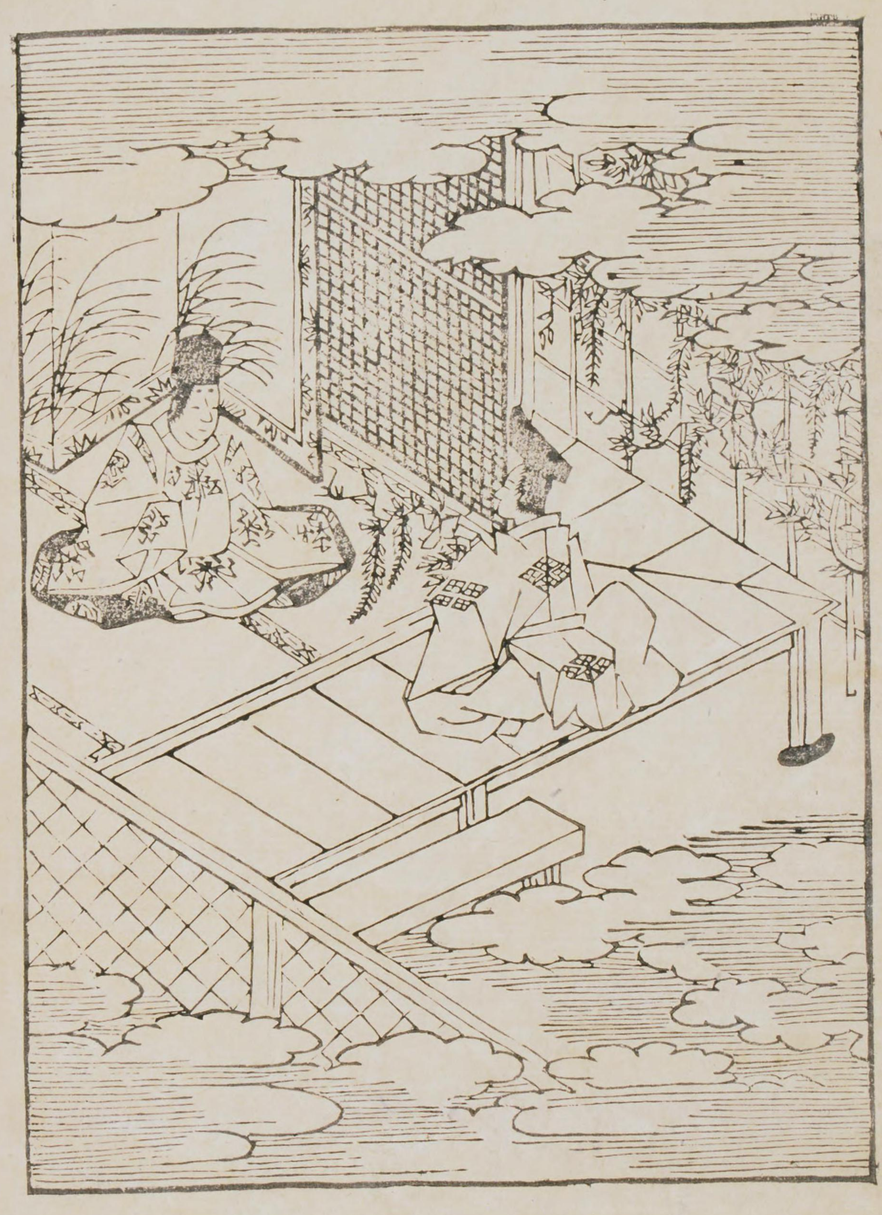
伊勢物語　WA7-27　00-081　国立国会図書館

国立国会図書館

むかし　一の帝　行平の女
（在原の）
なりにけるこうまで
（清和天皇第八の皇子貞数親王）

（ゆう名と三日の夜七日の夜うるふしの夜のとし）

おほとらうなわれあり
（祖父の前に芸事）
（作のもとに小比キー）
かの門ふたひ訪
（清和）
ろうそくれきこと
（清和）
るにふゆまき
（あつさきさむさき）
（のくれてゆくへさき）
（まり）
（行平）
（清和）
（中将）
（清和）
（清和）
（清和



伊勢物語　WA7-27　00-083　国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-084
国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-085
国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-086　国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-087　国立国会図書館

やはたの
はるくいはの
もいろ
あを
ふ
ふ
ふ

伊勢物語　WA7-27　00-089
国立国会図書館

葉

かの子供さうもなよてらめる
　　西のそらふ　　逃げ
　　　　　　　　　　　　　　整
　　　　　　　　　　　　　　　　　　西の
　　　　　　　　　　　　　　　　　　風ゆ
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　れうのホアが
まつ里々なきこゆるくまた
里も郭公（短）の八かなけのきつかへ
えまうてすさ（葉）まとも

（枕とこ隙せきとも）
にとこのことてはみ
（そらぬ別とは　さうらぬ別とは　不去別とあり人のゝんぬ記れん）
　　おいぬまへさ
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　

伊勢物語　WA7-27　00-091　国立国会図書館

ほうてん歟ふなせ(ゐ)わ(ゐ)れ(ゐ)まて亦の一(ひ)たり(ゐ)かう
ふわー人うと(俗)ゝ(ゐ)ゝ(ゐ)ゝ(ゐ

伊勢物語　WA7-27　00-093　国立国会図書館

行けば近くなれど

かへわくるこちとなくてうきかのしまゆへ

もちよしか家落は西くる所目く所

あやとわのかこをこやまへ河まの乃川さわ

ける火おほくみゆる所しのみ所なしの

業にとこよむ

いさり火のちくたくを後

は蜀に秋落ほ志か河邊のかゝ海かも

わりはむかこれあ海乃たく火

三つなりしをかいのちく

照よりそいかやの邊り

かへわあゆるれ

みの国ぬきてなんいせたりしはしとそて

伊勢物語 WA7-27 00-094
国立国会図書館

みれいたゞ乃光のこともいそこう紀之海の
なとふらせら祇るひろひそいたゞのうち
まもてあぬ女かゝまわうの見るをたゞ法
きにもわてすしはをおほひていしたゞ
すしたりけり
わたつ海落はしまとのといたふもと
きゝ見りたゞ見るへ和しゝ海さわかわ
みふう日と乃うたりてハあまよもり
やたら寸や

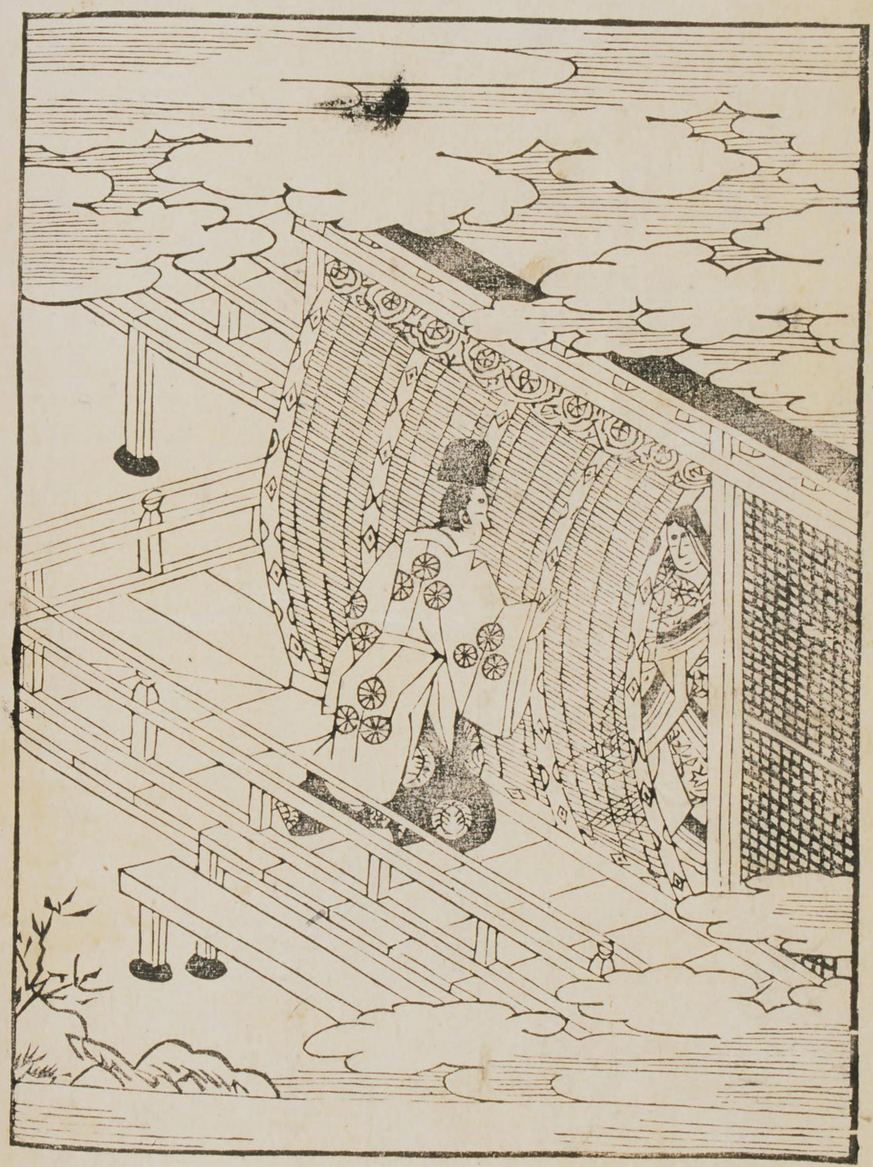
伊勢物語 WA7-27 00-095
国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-096　国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-097　国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-098
国立国会図書館

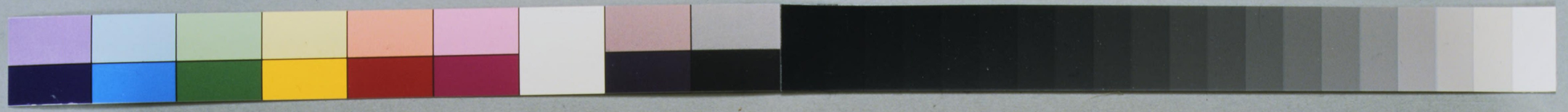
とをなん人をはうらうらめ（ま）（ま）（ま）

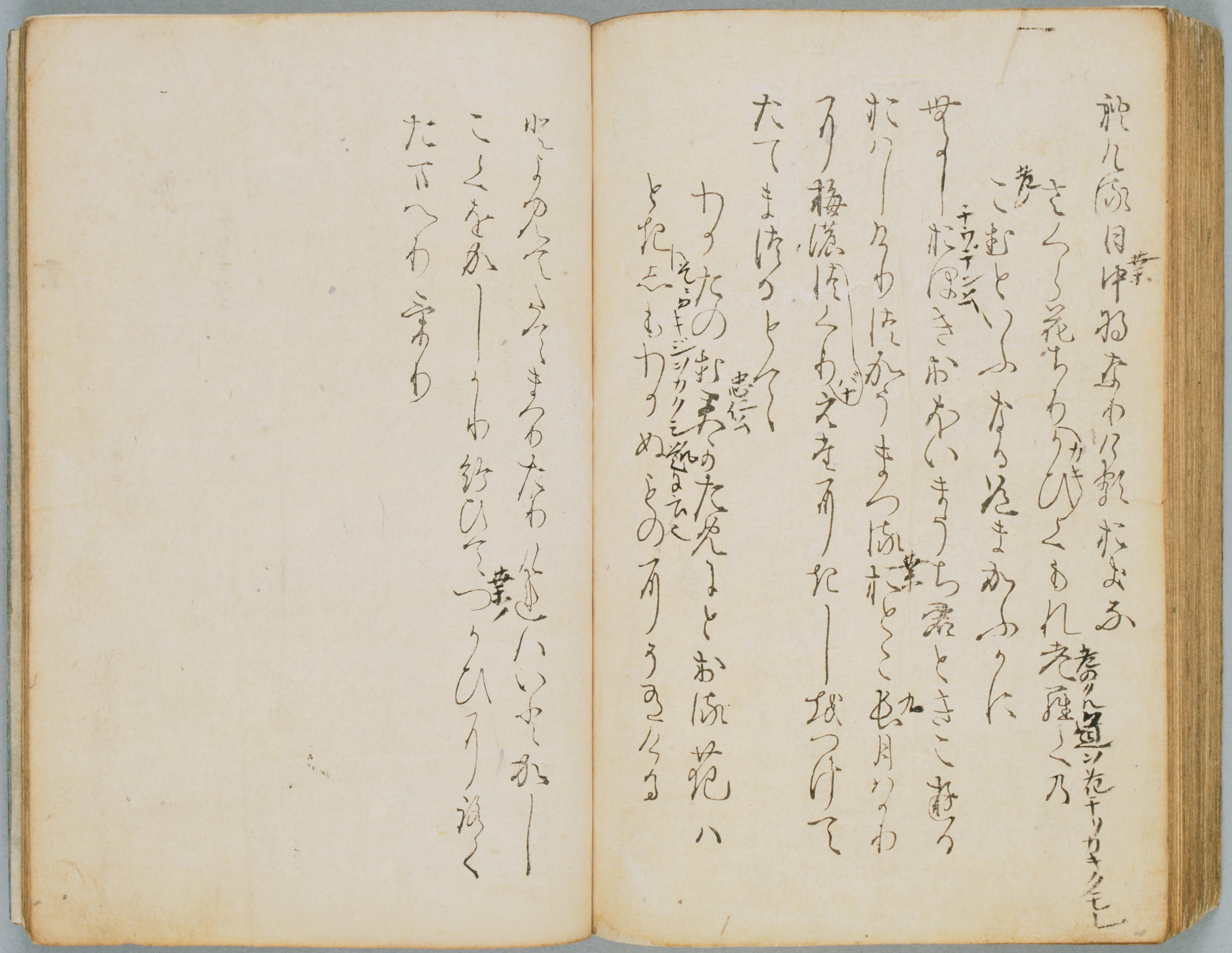


伊勢物語　WA7-27　00-100
国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-101　国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-102　国立国会図書館





伊勢物語　WA7-27　00-103
国立国会図書館

のちをふさと（芸）
（里）（有）（ユウ）（ユウ）
着おとこ（ユウ）後添（ユウ）離（ユウ）去（ユウ）
（ヤウ）（ヤウ）（ヤウ）
あるやむしなおとこ
（ま）
なくなり——乃
（ま）
いくさせ給てわたまし
（ま）
ニ末の葉ニ名
二巻ニ外
第十ト二ハ空名巻
一章二名
あの里まおふ（ユウ）
こり——乃ふ
（ま）
なわ
世の一さ無情なわ
（ま）
のとふあわ
（ま）
（ま）
（ま）

はせん所もとよわらはことハさらさも
ん也ハ可まひ所と志れてよませ所ハ
うくな事し
下心忠仁公ノ事ヨム
はくけふ乃志たかかく爲し人をほこ
何わ志りまさるふちはかけかも
なとのくしもら世也いひ所ハ彦ノ住忠仁公ほこれ
おゆく乃志い花のさうまにゆまうゆて
岐氏流ことにさのゆるはさなてとめると
なせいひ所ハ歌これ人うさらはなわかりわ

伊勢物語 WA7-27 00-105
国立国会図書館

着おとこありけり里哥ハよまさわけしと世
乃なりを思ひしわすれわあて女の
あはなわて世中城なりひうむして京
にもあらはれ軽かな御山さとにすゝ出わ
もとし世くなわけれ神ハよくてやりける
うむくとて雲にハ雅也も乃なれと
よのうれことうようふなるてふ
此なんいひやりけれ神宮のこやなわ
世にしおとこあけれ此と御め所しら

ようにてあるけるんふかわけわふうくを
濃こかゝりなむ流かうまろわける心あ
やまわ風しうわけんみこたちのつかひ給
けれ人城ひいつわけわさて
ねぬる夜乃夏をはのなこまとろめハ
いやたの那にもなわ海をるの那し
此なんよりて風りけれ御を御うゝれきた
あけ所ら
起りしことなほ可明くてあまになれ御

人をはわかるこちをやたしたまと物や
ゆかしまりは世かもおもひ見ふいてこれ
は歌をおとこうたよみてやる
よ我うみの何まとし人我こゝにあらに
めくいせよともたのまゝ蜀ゝの那
と我ハ所言はとの見あまひは歌車ありし
かくおこえたわは我ハ見さしてかへり
たまひ有しはりとな事
世なしおとこかくてはしぬ事しといひ

やりこまはまハ女
志ろ所ハけふまはなくむきえ寸とて
西有しぬくへ家人もあらし我
此いへわは我ハいとふめしと思ひけまと
心さしきいやまさりあり
世なしおとこみこゝちの物うえう志
行う所有しまうてゝ立田川深ほとわまて
ちりやふる我代もあるのたつこかは
かゝく我ふ所有しはくゝ所とは

昔あてなんおとこありけりうれ男濃もと
なりけり數人を内記所にありける故にこの
とし遊さといふ人よりひけりさまと
ゐさりけれハ此ハ見もおとしくし
うつすこと樂もいひしらす可いりんやあそ
らまさりけれたかのなるしなる人あむを
うきてかくきてやりけりめてまとひり
思わさておとこのよゆる
はしくのなりめふゐはなとたり

伊勢物語 WA7-27 00-108
国立国会図書館

袖乃こひちてあふよしもなし
返し是い乃おとこ女有りかりて
あさ見こう袖ハひつゝめなん大河
男さんなかなときすハたの下ん
此川へわれ袖ハおとこ以と伊こうめてく
いまくてまきてふれこゝりいまてあわと
な世いふなるおとこふ見をこ務さわえて
後濃こまなわれ里あ見のふわぬ家ゝり
なんこ和ほらひ侍ふ男さいりひあらそ

この雨ハふしと以へわれ是ハまい濃男
女有りかれてよ見そやら寸
かれくまゝひおもはれとひかこ見
男城ゝ流雨はふわうなさま流
ひよくそやまわれ袖ハこのもうさもとわ
あへて志ゆらにぬまそまとひきたれわ
せらし女人濃心をうらみそ
周あれハとは有りなんこ世岩なれや
至う衣を乃かれくとおなよ

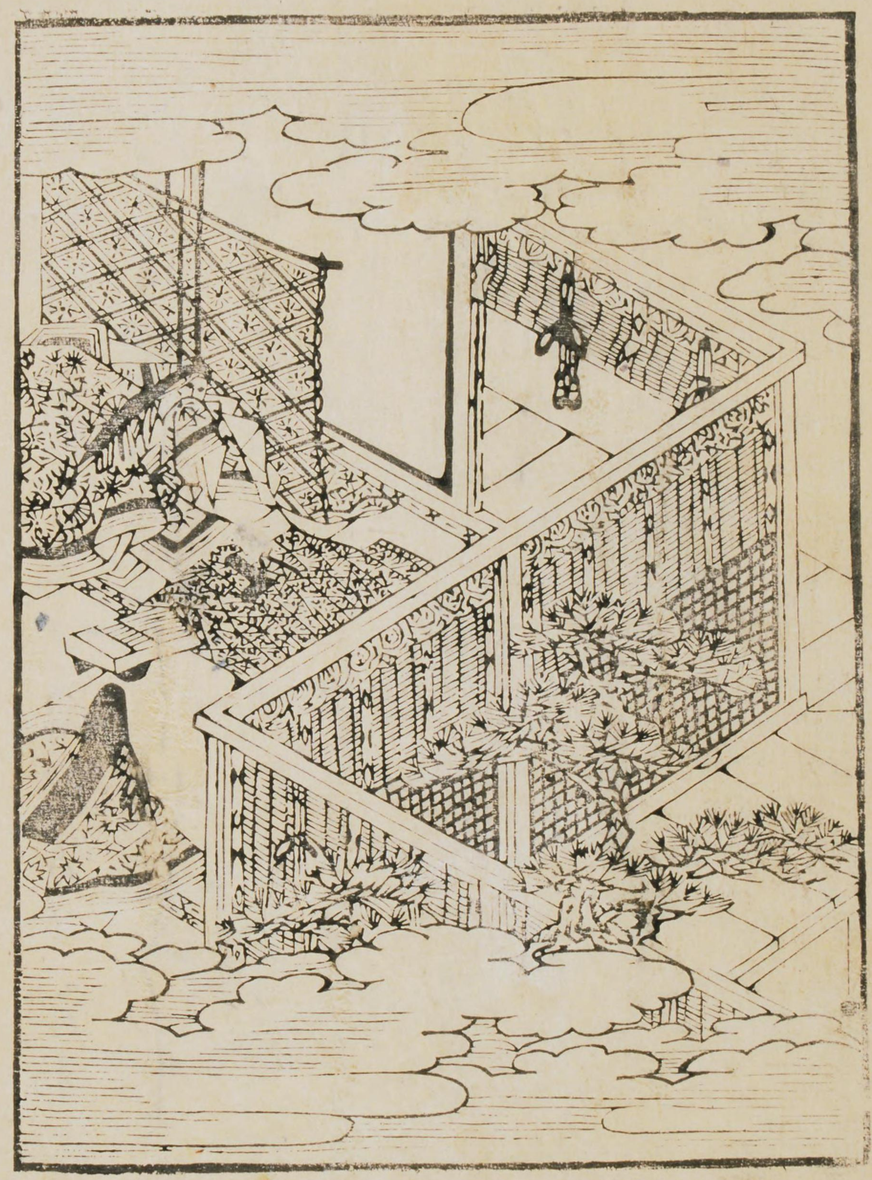
伊勢物語 WA7-27 00-109 国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-110　国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-111　国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-112　国立国会図書館

伊勢物語　WA7-27　00-113　国立国会図書館



せるしおとこ女乃はこよへ寸とおわした
はり人宿はもとにしし乃ひてもおきこえ
てのちかとへて
あふこ女はたくまれまわとくせなせ
はきなき人のふへ乃かれ見ん
せるしおとこ梅はほよわ両有しぬまて
人乃まかわいつはを見て
うくひ寸の花をぬふてふうさもの那
ぬるめは人有しきせてかんさむ

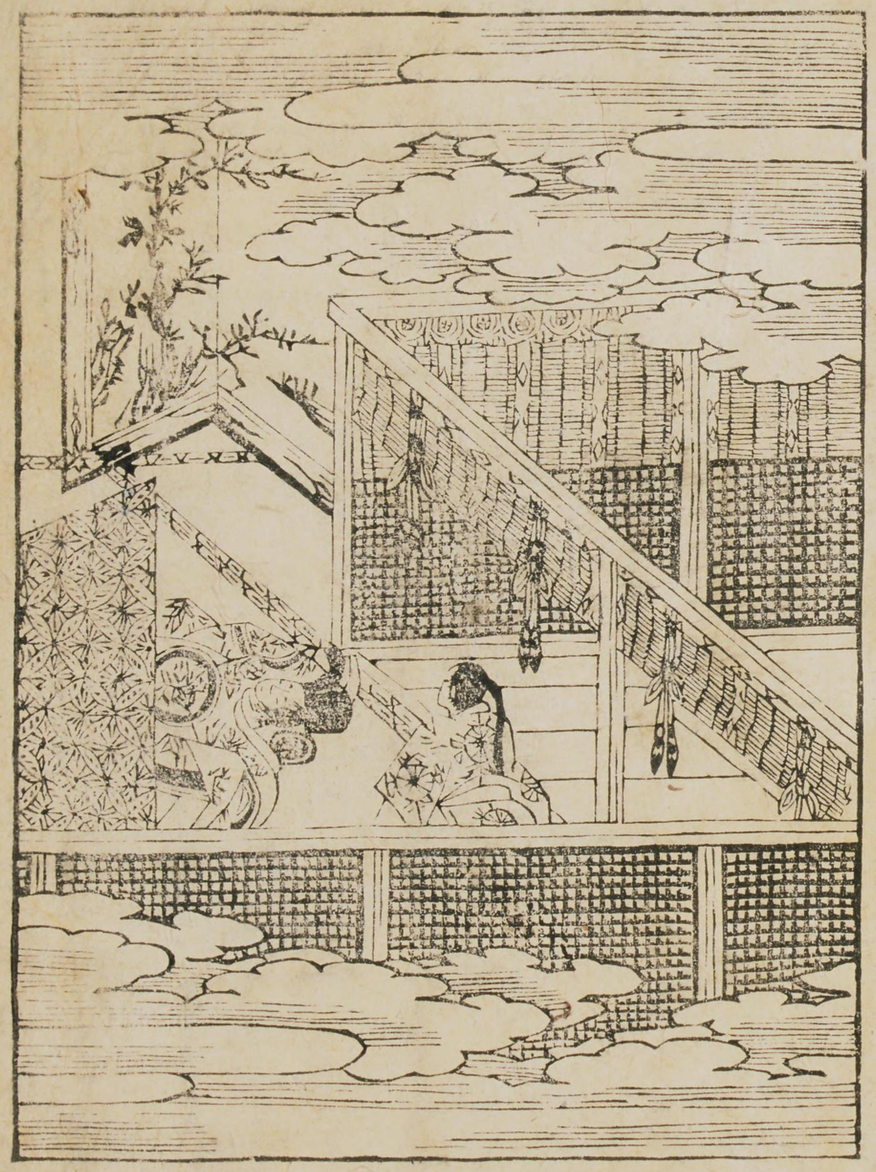
伊勢物語 WA7-27 00-114
国立国会図書館

返し

うくひと花をぬ物てふりきはいふ
おもひをつけよほしてかへさん
世よし男ちきれ故こと所やまき故人有
屋近所の井て落ちれてありむけひ
たの見しうひもなき世なわけわ
此いひやまといふへもきれ
昔おとこありけわふかくさふれ見れ故女
をやまくにまかさ有しやおもひれん

かくなんこ我よ見へ事わ
年をへて住こしけと我出ていなハ
いかゝふかくさ野とやなわな葉
女返し
野此ならけうつゝとなわて時をふん
うわ有るふやそ君ハこさ寝ん
此よめわ名数よめてゝゆりむとおもふ心
なくなわ有しわ
世よし おとこ伊りなわれ数事をおもひ

伊勢物語 WA7-27 00-115
国立国会図書館



伊勢物語　WA7-27　00-116
国立国会図書館

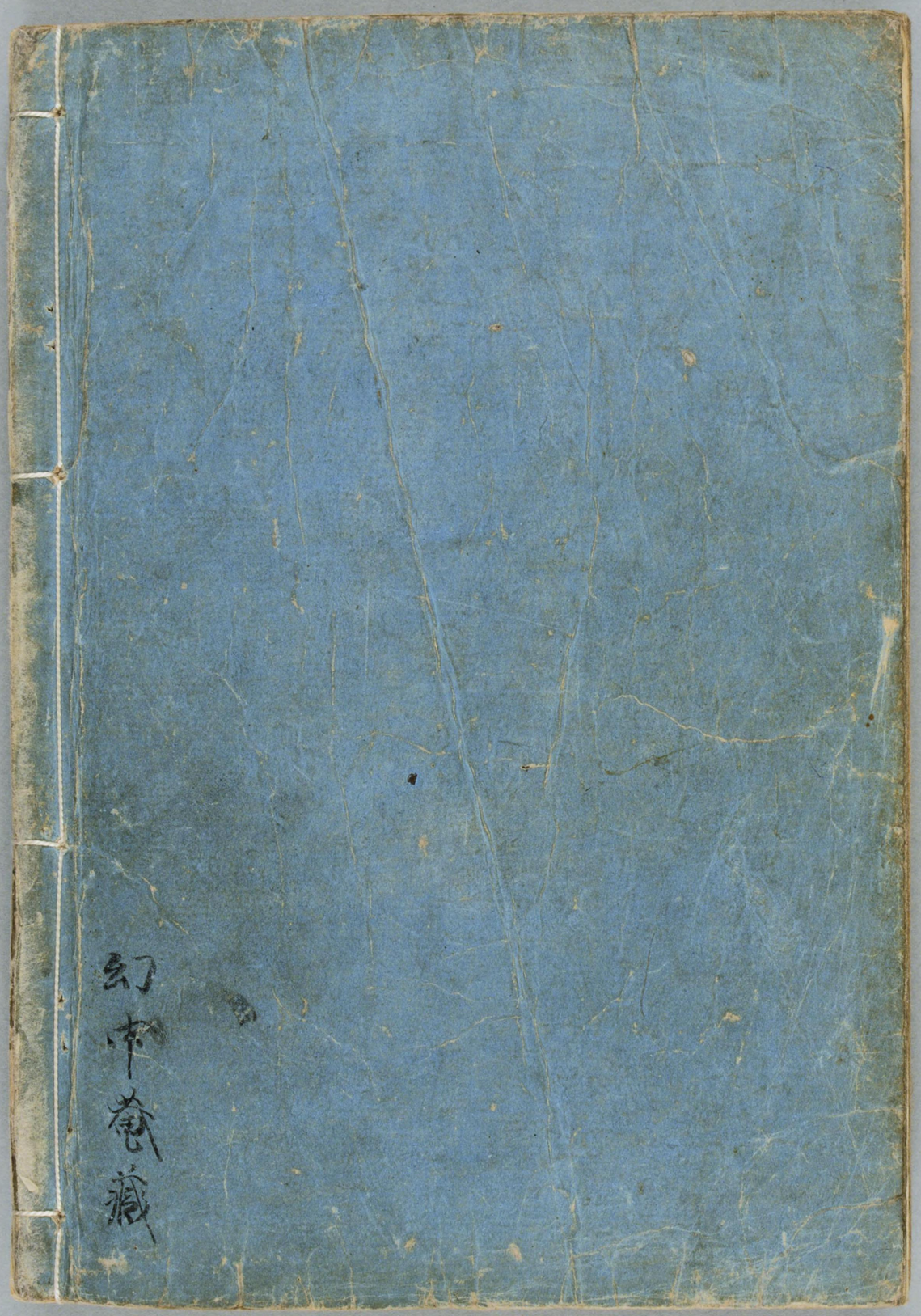
極黄門一本之奥書云此物語
之根源古人之説之不同云々故云慶
長戊申仲夏之比中院也是斬素然
以天初年所被与孫女本正之并加益
圖書申之雖分以為上下行于世矣
今亦以雲京申正之来令涿布を而已
慶長庚戌夏日

伊勢物語 WA7-27 00-117
国立国会図書館

WA 7
27

伊勢物語　WA7-27　00-118

国立国会図書館



伊勢物語　WA7-27　00-119
国立国会図書館